成果の説明書

(氏名)　小熊　仁	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

○　研究活動

◆　個別研究

今年度は現在、東京～徳之島、大阪～徳之島直行便の開設に向けての費用便益分析および需要予測を行うため、徳之島空港ターミナルビルにおいてアンケート調査を行った。調査期間は 2024 年 11 月 1 日（金）～11 月 3 日（日）の 3 日間であり、配布枚数 900 部に対し 319 部（回収率 35.4%）であった。調査結果は既に取りまとめを終えており、来年度 6 月に現地および航空会社に報告を行う予定である。また、報告終了後には、学会報告・論文投稿の準備に取り掛かる予定である。

◆　高崎経済大学地域課題研究

「大学前駅」設置による利用者便益を調査するため、2024 年 12 月 20 日（金）～12 月 21 日（土）の 2 日間、JR 仙山線東北福祉大学前駅においてアンケートを行った。配布枚数は 1000 部であり、回収枚数は 204 部（回収率 20.4%）であった。調査結果は既に取りまとめを終え、高崎市にも報告を済ませている。今後は学会報告・論文投稿に向けて準備を進めていきたい。

◆　学会報告・論文等

＜学会報告＞

・「離島航空におけるソーシャルキャピタルの経済評価」，（公社）非営利法人研究学会第 28 回大会,明治大学駿河台キャンパス,2024 年 10 月 5 日。

＜著書（テキスト）＞

・「旅客自動車運送事業」,千葉千枝子・朝倉はるみほか（共著）『観光経営学入門』第 3 章,32～37 ページ。

＜論文＞

・「道の駅の地域連携を通じた課題改善に関する研究～群馬県道の駅魅力アップワーキングの事例から～」『交通学研究』,日本交通学会,第 67 号,45～52 ページ(宮崎友裕・森田哲夫・小熊 仁の共著)【査読あり】。
・「米国の EAS と地域航空の維持に向けた展望」『ていくおふ』,(株)ANA 総合研究所,第 174 号,25～36 ページ【査読なし：依頼原稿】。
・「離島航空におけるソーシャルキャピタルの経済評価」，『非営利法人研究学会誌』,非営利法人研究学会,Vol.27【査読中】。

＜その他＞

・「道の駅の経営と採算性」『交通経済研究所 News』
・「【研究者の論点 日本海運経済学会】内航船員の早期離職問題「生き方改革」の検証も必要」『日本海事新聞（電子版)』,（株）日本海事新聞社,2024 年 9 月 19 日。

○　教育活動

本年度は、「交通政策論」（前期)、「観光交通論」（後期)、流通経済論（後期)、「基礎演習」（後期)、「演習Ⅰ」（通年)、「演習Ⅱ」（通年）を担当した。「基礎演習」では「航空研究班」「道の駅研究班」「都市鉄道研究班」の 3 つの研究グループに分かれ、航空研究班は与那国島をフィールドとし、琉球エアーコミューター、与那国町観光協会の協力のもと現地でフィールドワークを行った。また、道の駅研究班は安中市道の駅を対象に、建設予定地の現地フィールドワーク、安中市職員との意見交換会を実施した。都市鉄道研究班は都市鉄道の混雑緩和と整列乗車の関係をテーマに JR 東日本首都圏本部に対しヒアリング調査を行い、翌年度調査テーマと調査駅の選定を行った。一方、

「演習Ⅰ」についても「航空研究班」「地方鉄道研究班」「都市鉄道研究班」の 3 グループに分かれ、航空研究班は大館能代空港における現地フィールドワークの成果について、ANA、大館能代空港、秋田県、大館市に報告を行った。地方鉄道研究班は天竜浜名湖鉄道における現地フィールドワークの成果について掛川市に報告を行った。都市鉄道班はJR 首都圏 6駅を対象に行ったホームドアと駆け込み乗車の関係に関する実地調査の成果についてJR 東日本首都圏本部に対して報告を行った。「演習Ⅱ」では、年間を通し卒論作成指導を行った(16 名全員卒論提出)。最後に、学内業務としては、入試運営委員会と図書館運営委員会の委員として、入学試験および図書館運営関連業務に携わった。また、職域代表、高崎経済大学地域政策学会理事としての業務にも従事した。

○　社会活動

下記の委員会で活動を行った。

・国土交通省北陸地方整備局関川水系流域委員会委員
・国土交通省北陸地方整備局手取川水系委員会委員
・国土交通省北陸地方整備局姫川水系委員会委員
・安中市道の駅整備検討委員会
・高崎・安中信越本線活性化協議会

2　その他の事項

該当なし

3　次年度以降の計画・抱負

来年度は徳之島空港調査および東北福祉大学前駅調査の成果について、学会報告・論文投稿の準備をすすめ、早期の成果発表につなげていきたい。また、JSPU 科学研究費補助金をはじめ研究費の獲得に向けて入念に準備をすすめていきたい。